

# 鉄道ピクトリー

1964年12月号 Vol. 14 No. 12

&lt;特集&gt; 東海道線電車特急訛別記念

表紙 「富士号」を送る ..... 佐竹 保雄

カラー頁 京都市電ワンマンカー ..... 川本 紘義

グラフ

大阪市営地下鉄第4号線弁天島→本町間開通 ..... 佐竹 保雄 7

世紀の寵児として東海道線に君臨した当時のビジネス特急

こだま号 ..... 高松吉太郎 8

東海道線のクインとして活躍した英姿も今は思い出.....

中田安治・高松吉太郎・津田 博・河 昭一郎 10

お別れの日も近づいて最後の活躍をつづける東海道電車特急

石川勝久・高松吉太郎・吉川文夫・出沢幸長 12

こだま型最後の湘南急行(オリンピア号) ..... 白木信二郎 14

連絡船入港 ..... 遠藤 洋 39

オリンピック輸送 ..... 白井良和・飯島 学・白木信二郎・篠崎 巖 40

&lt;第9回鉄道写真コンコード入選作品集&gt;

白煙と共に ..... 神谷 修司 42

冬の朝の塩尻峠 ..... 中村 敏郎 43

冠着に挑む ..... 白井 良和 43

帰宅時間 ..... 長谷川英紀 44

機関車 ..... 山本 武男 44

操車場点描 ..... 森 隆 45

外輪山に挑む ..... 庄野 鉄司 46

金沢-富山電化続報 ..... 西脇 恵 48

はくつる号誕生 ..... 濑尾重孝・柏木璋一・篠崎 巖・牟田幸寛 49

川崎製鉄千葉製鉄所の機関車 ..... 白土 貞夫 50

39年度指定鉄道記念物 ..... 国有鉄道提供 54

わだいのくるま (155) 定山渓鉄道2300形 ..... 52

トピックフォト

北海道だより ..... 52

九州・山陽・関西・中部・関東・東北だより ..... 79

## 記事

今月の話題・39年度運輸白書を発表 ..... 3

鉄道公団の本年度事業計画 ..... 齊藤 俊彦 4

東海道線電車特急運転概史 ..... 海老原浩 15

「ひかり2号」初乗り記 ..... 野村 董 20

「ひかり1A」に乗る ..... 古山善之助 23

広島→小郡、区間電車初乗記 ..... 清水 正実 26

金沢-富山間電化完成はつのり記 ..... 西脇 恵 28

&lt;上諏訪-甲府&gt;「たてしな」号試乗記 ..... 笠原 香 30

大阪市高速電気軌道第1号線新大阪-梅田間開通 ..... 市川 進 32

東北ローカル線シリーズ(1) おき忘れられた川俣線 ..... 久保田 博 36

鉄道の話題 ..... 38

昭和39年度「鉄道記念物」の指定について ..... 小野 広司 55

私鉄車両めぐり [63] 川崎製鉄千葉製鉄所の機関車 ..... 白土 貞夫 57

満鉄の機関車(続) ..... 小熊 米雄 61

京都市電2000・2600形 ..... 川本 紘義 69

38年度国鉄旅客及び貨物輸送の概況について ..... 副島 治 70

質問に答える ..... 72

読者短信 ..... 74

車両の動き ..... 76

10月のメモ帳 ..... 78

後部車から・TTKだより ..... 87

運輸省は「運輸白書」と  
もいるべき「昭和39年度運  
輸経済年次報告—変革期に  
ある輸送構造—」をまとめ  
10月30日の定期閣議で了承  
を得て同日発表した。

同報告は総論・各論に分  
れ、A4判500頁におよぶ  
6冊の報告書で、從来、運  
輸省は航空白書・観光白書・海運白  
書など各局単位の報告書が発表され  
ていたが、今後は年次報告として「變  
革期にある輸送構造」という副題が  
つけられ、年度を越えたやや長期的  
な展望がなされたもの。本書では、  
特に「輸送力増強が可動施設(鉄道  
車両・自動車・船舶・航空機)を中心  
に行なわれて基礎施設(道路・鉄  
道・港湾・空港)がそれに追いつか  
ず、その不足が目立っていること、  
この現状を打破するため、今後社会  
資本をはじめとする交通投資を早急  
に拡大する必要がある」と強調して  
いること、中でも鉄道に対しては「輸  
送施設の整備を急げ」と強い要望  
が寄せられている点が注目を引く。

東海道新幹線が開通し、オリンピ  
ックのおかげで東京の道路が多少改  
善されたといっても、全般的にみれば、  
経済の高度成長に対比して一番  
立ち遅れているのは輸送面である。  
このままでは、貨物の輸送コストの  
増大、通勤輸送のマヒは避けられな  
い。昭和30年以降、輸送需要は質的  
にも量的にも大きく変わったが、  
供給構造は必ずしもこれに対応でき  
なかつた。その結果、輸送はいたる  
ところで行きづまり、たとえば、國  
鉄輸送の場合、30年以降38年までに  
軌道延長はわずかに6%しか増強さ  
れていないが、輸送量は貨物の輸送  
トン数で3割、旅客の輸送人員で5  
割7分も多く運んだ結果になつてい  
る。これは可動施設、つまり貨車や  
客車をふやし、運行回数を増加する  
ことでどうにか輸送需要をこなして  
きたからである。しかししその無理も  
限度にきている。これがいわゆる過  
密ダイヤとなって事故の原因になっ  
ている。要は輸送の基礎施設が不足  
していると指摘しているのである。

〔表紙〕「富士号」を送る 佐竹保雄  
上り第1富士号 (2M)

山科付近 39. 8. 23  
バールIV ヘキサーF3.5 紋り5.6 1/500  
エクタクロームX

〔口絵〕「京都市電ワンマンカー」  
2000・2600形 川本紘義  
鳥丸三条にて 39. 5. 8  
ミヤフレックスプロフェショナルC2  
セコール105mm F3.5 紋り8 1/250  
エクタクロームX

TETSUDÔTOSHO KANKOKAI  
Nihon kotsûkôyôkai Bldg.  
Marunouchi 4, 3 Tôkyô/Japan